

# 化石燃料の使用を抑え、環境にやさしい放牧飼養の取り組み ～自然を守りながら「土一草一牛」を調和、高い飼料自給率を実現～

はんざわ

## 榛澤牧場(釧路市)



広大な草地で草を食むアンガス種

### ◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 父親の代から、ヒトが食べない食品副産物(醤油粕、大麦ふすま等)を牛に与えて肥育するの が肉用牛飼養の原点という考えを貫く。
- ◆ 輸入飼料に依存せず、農薬と化学肥料を使用しない有機飼料の生産、たい肥の放牧地への 還元など、「環境負荷低減」や「飼料自給率向 上」を実践しながら、「食品副産物の利用」で肉 用牛生産に取り組む。
- ◆ 牛には抗生物質等の使用を極力少なくし、自然 の生育に任せた草地で放牧するなど、「アニマ ルウェルフェア」も実践している。
- ◆ 化石燃料などを極力使用せずに肉用牛を生産 するプロセスを大切にしている。

### 【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 飼料として複数の食品副産物を購入して いるが、供給量が安定しないものが多く、必要量を 確保するのが難しい。  
⇒牛の食欲や嗜好性、整腸作用を注意深く毎日 観察しつつ、食品副産物の混合割合を変えるこ とで対応している。
- 近隣の農家から牧草収穫作業のサポートを受 けていたが、有機飼料(JAS認証)を生産する ために収穫機械の洗浄等管理が必要となるた め、サポートを受けることが難しくなった。  
⇒収穫作業を当牧場が管理する機械で行えるよ うにし、作業工程に係る管理記録の記載に手 順を設けるなど、当牧場の誰もが収穫作業に 対応できるように工夫した。

### 【組織等の概要】

- 経営主: 榛澤 保彦
- 所在地: 釧路市美濃15線156番地
- 経営形態: 肉用牛一貫経営(家族経営)
- 耕地面積: 採草地76ha、放牧地140ha
- 飼養頭数: 300頭
- 飼養種別: アンガス種
- 販売先: パルシステム等

### 【取組の成果】

- ◆ 牛には主に有機飼料を与え、放牧中心でストレ スを与えない飼養方法を実践するなど、農業の 自然循環機能の維持増進を図る取組から、 平成29年に有機畜産物JAS規格認証を取得。
- ◆ 製造や輸送に大きなエネルギーを使う配合飼 料の購入をやめるなど、環境負荷低減対策とし てエネルギー使用削減。



境界線が見えないほど広大な放牧地



食品副産物の一例(醤油粕)

### 【今後の展望】

- 環境負荷低減等の取組を更に向上させ、有機 畜産の普及活動を通じながら、この地で持続 可能な肉用牛生産を模索していく。
- 今後も再生可能エネルギー由来で生産した食 料を供給できるように努めていく。

平成22年度  
全国優良畜産経営管理技術発表会  
最優秀賞・農林水産大臣賞を受賞